

授業科目 聴覚障害 III

【担当教員名】 吉岡 豊		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○		
【概要・一般目標：G10】 聴覚障害児・者にとって必要な補聴器・人工内耳について理解し、視聴覚二重障害児・者についても知る。					
【学習目標】 1. 補聴器の種類と仕組みを理解する。 2. 補聴器に関する用語を説明する。 3. 補聴器の調整装置の効果を記述できる。 4. 聴覚機能検査に結果と補聴器の出力特性を関係づける。 5. 補聴器装用効果の測定する。 6. 訴えに応じて補聴器を調整できる。 7. 人工内耳の構造とマッピングについて理解する。 8. 視聴覚二重障害児・者の特性と評価方法について理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	補聴器の種類と仕組みについて			1	
2	補聴器に関する用語について			2	
3	補聴器の出力を調整する装置について			3	
4	聴覚機能検査結果から補聴器適合への流れ			4	
5	挿入利得の算出方法			4	
6	補聴器装用効果と不快感に対する対応（補聴器調整）			5, 6	
7	人工内耳について			7	
8	視聴覚二重障害児・者について			8	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		改訂第3版 補聴器フィッティングの考 え方	小寺一興	診断と治療社	2010・3,200円＋税
参考書		聴覚障害 I 基礎編（改訂版） 言語聴覚士のための聴覚障害学	山田弘幸、佐場野優一 編 喜多村 健	建帛社 医歯薬出版	2007・2,500円＋税 2002・4,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。成績は原則として定期試験の点数をもって行う。			【履修上の留意点】		